

平和・ジェンダー平等めざす 交流と南京訪問

新日本婦人の会会長

笠井貴美代



2012年5月14日から17日、中華全国婦女連合会の招きで、新日本婦人の会の訪中代表団の団長として、平野恵美子国際部長、長谷川あまり中央常任委員とともに、北京市、南京市を訪ねました。

新婦人と中華婦女連の交流は1999年から始まり、4回の訪中と4回の訪日のうえに、9回目となります。今回は北京市とともに南京訪問を希望し、この間つみかさねてきた交流のなかでの相互理解の進展と信頼の深

まりを実感する、実り多いものとなりました。

おりしも訪問の前日、日中韓首脳会談が北京で開かれ、「慰安婦」問題や尖閣列島などの領土問題をめぐって政府間の協議がされるなかでした。今回の訪中と交流が、平和と人権をねがう日中女性NGOの民間外交ともいえる意義ある場となりました。

会談―大震災、ジェンダーで共通の課題

15日の中華婦女連との会談は、朝から3時間近くにおよび、熱心でなごやかな懇談となりました。中華婦女連から鄒曉巧(すうぎょうこう)国際部長、張広雲(ちようこううん)国際部アジア処調査研究員(処長級)、楊暘(やんやん)国際部アジア処副処長、劉徳芹(りゅうとくきん)弁公室主任が参加。

鄒さんは、中国での新婦人との5回の会談にすべて参加し、国連女性差別撤廃委員として日本政府報告の審査時に「慰安婦」問題で追及した方です。楊さんがこの会談を含め、全日程のハードな通訳を一手に引き受けてくださいました。

●日本から―お礼、日本の情勢とジェンダー

まず、私から東日本大震災で中華婦女連からいただいたお見舞いと1000万円の義援金にお礼をのべ、女性と子どもたちのために使われ、喜ばれていることを新婦人しんぶんや各地からの礼状を見せながら話しました。鄒さんはそれらに見入りながら、ちようど4年目を迎える中国の四川大地震(2008年5月12日発生、死者約7万人、行方不明者約1万8千人)への新婦人の支援へのお礼も述べ、四川大地震後、ジェンダーの視点での支

<訪中の活動日程>

5月14日～17日

- 14日(月) 北京到着、朱慶齡故居見学
- 15日(火) 中華婦女連との会談、中華婦女連主催の歓迎会、中華婦女連主催の南京見学、南京大屠殺記念館見学、南京大屠殺記念館見学、南京大屠殺記念館見学、南京大屠殺記念館見学
- 16日(水) 南京大屠殺記念館見学、南京大屠殺記念館見学、南京大屠殺記念館見学、南京大屠殺記念館見学、南京大屠殺記念館見学、南京大屠殺記念館見学
- 17日(木) 南京大屠殺記念館見学、南京大屠殺記念館見学、南京大屠殺記念館見学、南京大屠殺記念館見学、南京大屠殺記念館見学、南京大屠殺記念館見学



右から、張アジア処調査研究員、鄒国際部長と訪中代表団の笠井会長、平野国際部長、長谷川中央常任委員



会談で新婦人しんぶんをひろげながら

援の必要性について専門家から意見があり、政策や計画策定に動き出していることを述べました。

私は、大震災・原発事故後の日本の情勢と女性たちの現状について紹介しました。政権交代した民主党政権が復興おきざりで大増税や原発再稼働、基地強化へと自民党以上の危険な動きを強め、国民との矛盾を深刻にひろげていること、震災・原発事故で国民の意識が大きく変化し、ツイッターデモや新しい共同などがひろがり、創立50年の新婦人が草の根運動と女性の共同をひろげるうえで大きな役割を果たしていることを説明。尖閣諸島問題を利用したキャンペーンや双方の軍事的対応、名古屋市長の南京大虐殺否定発言などの

動きがあることにもふれ、国民のなかでは、

中国とも軍事的対応でなく外交による対話を求める声が8割を超え、中国との人的交流や経済関係の進展のなかで意識も変化している、領土問題も歴史と国際法にもとづき解決すべきと強調。鄒さんが数字を聞きなおし、うなずいてメモする姿が印象的でした。

ジェンダー状況については平野さんが紹介しました。2009年の国連女性差別撤廃委員会の総括所見とその後フォローアップについて現状と新婦人のとりくみ、日本のジェンダー平等の遅れと要因、非正規の増大などはたらく権利の問題、JALや資生堂アンフイニの女性たちの不当解雇撤回の裁判などにもふれました。資生堂の化粧品は中国女性にも人気があり、日本を代表する大企業で女性たちのたたかいがあることを、鄒さんは「印象深く聞いた」と注目。新版パンフを紹介しながら「慰安婦」問題の運動を知らせると、国連での審議にもふれつつ、「日本政府が加害の歴史を正しく見ていないことが一番重要なポイント」と指摘し、「新婦人のたたかいに敬意を表する」とエールが送られました。

● 中国から―女性政策と婦女連の活動

鄒さんからは、中国の女性政策の最近の動向や婦女連の活動について以下、報告があり

ました。

2011年7月、政府は2020年までの女性・児童発展の第3次要綱を発表し、それまでの6つの重点分野（健康、教育、経済、政治参加、環境、法律）に女性の社会保障を加えて7分野にし、出産、医療、養老など5つの保険加入を目的に入れました。

婦女連の活動について6つの分野で紹介されました。

①女性の起業への小口融資を2009年から推進、約556億元（1元＝12・5円）を融資。利子23億元を中央政府と地方政府が負担。貧困地域でのニーズが大きく融資上限を引き上げ。

②農村女性の子宮頸がん乳がんの無料検診。テスト実施し、2009～2011年末までに1300万人が受診。今年から強化して毎年1000万人に子宮頸がん、120万人に乳がんの検診実施をめざす。婦女連としては宣伝教育活動、両がん救援基金設置で医療費の負担軽減。

③農村女性の政治参加の引き上げ。伝統的な男尊女卑、伝統的性別役割分担意識が強い地域で村民委員会に占める割合が低い、村民委員会組織法改正により、少なくとも女性1人、村民代

表大会代表の3分の1を女性とするよう強調。数年の努力で17%から24%まで上がり、30%の省も。

④ ハイレベルの人材、とくに若手の女性研究者の育成。国家自然科学基金プロジェクトの申請は男女とも35歳までとなっていたが、女性は結婚・出産で研究成果を出すまでに時間がかかることから、女性は40歳までに改善。

⑤ 西部の貧困地域の6カ月〜3歳の乳幼児に栄養パック配布。

⑥ 両親とも都会への出稼ぎで農村に残された子どもたちへの特別な配慮。精神的にも生活上も悩みを抱えており、政府とともに婦女連も支援、全国各地で女性同士助け合うグループをつくり、留守番の子どもの支援ステーションが3万7千できている。

悩みや課題もたくさんあると、次の3つの

紹介がありました。

① 女性の政治参加の割合が理想と程遠い現状。女性の社会進出がすみ、意思決定の場への参加を目標をもってすすめているがまだまだで、国連の女性機構とも協力しプロジェクト進行中。ハイレベルの指導者、とくに男性指導者にジェンダーの視点が欠如しているのは日本と同じ。全人代の女性代表は21・5%、4年前の選挙で22%に引き上げようとしたが、到達せず。婦女連は22%も満足できない。意思決定に携わっている人にジェンダーの意識を徹底する教育が必要。

② 女性の就職差別の問題。法律上は禁止されているが、会社や企業が女性を採用しない実態がある。

③ 農村からの出稼ぎ女性、農村に残る女性の権利を守ること。健康、仕事と家庭の両立、子どもの教育、幼稚園入園も悩みが大きく、解決には婦女連だけでは無理で、政府への要請や各界に支援・協力を呼びかけている。

郷さんの報告に、社会や条件は違っても、共通点も感じ、新婦人が子宮頸がんのワクチン接種無料化と検診の運動にとりくみ成果をあげてきたことを紹介すると、ワクチン

もあるのかと質問される場面も。また、率直に出された、意思決定過程におけるジェンダー視点の重要性と女性の政治参加引き上げの課題についても大いに共感していました。

● 四川大地震の復興は

会談を終えて、孟暁駟（もうぎょうし）副主席も参加し、婦女連主催の歓迎昼食会が開かれました。孟さんは、日本の福島にも来たことがある方で、被災地福島の民芸品の赤べこを贈り、喜ばれました。昼食会で、四川大地震の復興状況について訊ねると、北京や上海などの大都市がそれぞれ支援担当地域を決めて、競い合うように復興住宅を建設（あとで調べたところ住宅改修は約540万世帯、約1200万人分）、地震による失業問題も解決し、被災地の住民の生活レベルは地震前よりも改善したとのこと。しかし身内を亡くした深い悲しみはまだ癒えず、いま婦女連は心のケアにとりくみ、専門家を現地で育成しているということでした。国情も人口も違うとはいえ、経済力はGDP世界2位、3位と肩を並べる国、政治の姿勢でこんなに違うのかと日本の復興の遅れを痛感せずにはおれませんでした。



福島の民芸品「赤べこ」を
孟暁駟副主席に贈る

衝撃の南京訪問

●南京大虐殺と「慰安婦」問題

今回の訪問の最大のハイライトは南京訪問でした。南京大虐殺は、1937年12月13日、日本軍が当時首都だった南京を占領、その後6週間にわたり、国際法に公然と反して、武装解除した兵士、無抵抗のおびたしい数の女性や子ども、老人、市民に対し「焼く、殺す、犯す、奪う」など残虐非道の限りをつくした事件です。この大虐殺事件が引き金となって日本軍による組織的な「慰安所」設置が本格的に始まったとされ、中国全土への侵略と「慰安婦」問題が一体に拡大してきました。南京訪問は、昨年9月以来の韓国政府からの協議申し入れなど日本軍「慰安婦」問題がいよいよ解決を迫られ、また河村たかし名古屋市長の「南京大虐殺はなかった」との発言や領土問題も利用した軍事的な応酬がつよまるなかで、侵略戦争美化や軍事強化を許さず、「慰安婦」問題の解決を求めて運動している新婦人のつよい希望で短い訪問のなかに入れてもらい実現したものです。

15日の夜、北京から南京にむけて飛行機で飛び、出迎えてくれたのは江蘇省婦女連合会の弁公室主任、邵朝建（しょうちょうけん）

さんでした。南京の地にいるというだけで厳粛で緊張した気持ちにさせられている私たちをあたたくお世話してくださいました。

16日朝、9時の開館時刻にあわせて南京大虐殺記念館へ。記念館にむかう緑の多い大通りを車で走りながらも、市内に20カ所あまりあったという集団虐殺の跡地があちこちにありまます。その地のひとつに1985年に建てられたのが「侵華日軍南京大虐殺遇難同胞記念館」（以下「南京大虐殺記念館」「記念館」）です。2度の改修で、いまは約74km²（後楽園球場グラウンドの6・4倍）というひろい敷地に、A 集会広場、B 展示陳列、C 遺跡、D 平和公園の4つのエリアがあります。朝早くからたくさんの方が訪れていました。朝集会広場のあちこちに、悲しみと平和を訴える大きな彫像がおかれ、緑の木陰にはサンダル履きで涼んでいる人もいて、平和的な市民の憩いの場ともなっています。

●足がふるえる歴史の事実

展示陳列館に入ると、「人類的浩劫」（人類の災禍、ホロコースト）の大きな文字が飛び込んできました。暗いなかにかげあがる集団虐殺地の数々、虐殺され、焼かれ、揚子江に投げ捨てられた死体の山…、どの人にもあった人生や家族が、こんなにも理不尽に無残



南京大虐殺記念館の入口には、放心したように空を見上げる高さ10mの女性像。腕には死にゆく幼子が。



南京市は現在、江蘇省の省都、人口500万人。写真は紫金山にある革命の父、孫文の墓。

に断ちきられた怨念、叫びが聞こえてくるようです。老若を問わず性的暴力を受け辱められた女性、それを目撃した子どもたち、街の3分の1を破壊し、略奪の限りをつくす日本軍：胸がえぐられるような写真や展示の数々に圧倒され、足がふるえてきます。

忙しいなかお会いできた朱成山館長とは、表敬のご挨拶のつもりが、1時間半もの懇談となりました（内容は13〜15頁）。朱館長はこの記念館の目的が、歴史の事実を伝え、その教訓に学び、過ちを繰り返さず、平和な未来のためにつくられたことを強調しました。

日本軍の南京占領後1カ月で2万件あまりの性暴力事件があったとされ（極東国際軍事法廷判決）、占領翌月には南京市内2カ所に「慰安所」がつくられました。さらに中国全土の20余の省都に「慰安所」を設立、数十万の中国人女性が日本軍に連行されて「慰安婦」にされたといえます。展示館2階には「慰安所」が復元されています。朱館長は、2000年の女性国際戦犯法廷にも被害女性の楊明貞（ようめいちん）さんとともに参加したことを語り、9歳で日本兵にレイプされ、いま養老院ぐらしの楊さんが、病気で精神的に苦しみ、大きな声で叫んだりすると近況を紹介しました。性暴力は女性の人権を蹂躪し、生涯にわたって深い傷跡を残します。

中国では性暴力を公にしにくく、被害者が心の奥にしまいこんでいる人が多いとのこと、その分、苦悩も深いと考えるとき、日本政府の一日も早い公式の誠意ある謝罪でこそ真の癒しとなると改めて思いました。

●戦争体制づくりと今を重ねて

〔展示内容が〕あまりに残酷という人もいます。しかし、残酷なのは、資料でも写真でもなく、歴史そのものです。復讐心をおおるためではありません。私たちは、ひとにぎりの軍国主義者と一般兵士や国民を区別しています」と朱館長。

展示のなかには、日本のメディアが撮影したものの、報道が厳しく検閲されて、掲載が許されなかった「不許可写真」もありました。日本の軍人と市民とが談笑し、平和に南京を占領したかのように見せる写真だけを掲載する当時の大手紙が展示されていました。

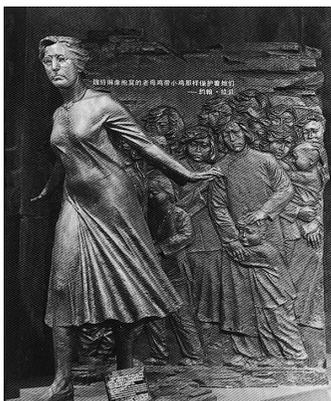
侵略戦争の真実を覆い隠し、日本の民衆を戦争へと駆り立てた天皇絶対の体制と軍部や教育、そして体制いいなりで自ら戦争の推進役になった大手メディアの責任と役割を、今日にも通じる問題として考えさせられます。

当時、首都だった南京に多くの外国人が住んでいました。国際安全区とされた地域や難民収容所をつくって、数十人の外国人が危険

おびただしい女性への性暴力は、日本軍による組織的な「慰安所」設置のひきがねに。写真や展示は中国語、英語、日本語で解説されている。テープで元日本兵の生の証言を聞くこともできる。



米国教師ウオーリントンさんは、教鞭をとっていた金陵女子文理学院に難民収容所を設立し、9000人余の女性と子どもを一鳥がひよこを守るように「保護」した。極限のなかで精神を病み、母国に帰国後自殺。残した言葉は「もうひとつ命が残っているなら、再び中国人のために尽力するであろう」だった。20002年、親族が日記と史料を寄贈した。



を顧みず南京にとどまり、中国人を保護して救済し、戦後もこの事実を証言し告発したことがコーナーをつくって紹介されています。9000人余りの女性と子どもを守った米国女性教師ヴォーリントンさんは戦後母国に帰国し、残虐行為にたちあつたトラウマから心を病み、不幸な最期をとげたという説明に、戦後長く続く傷の深さに胸をつかれました。

●なぜ否定論が繰り返されるのか

写真3500枚、物品3200点、記録映画149点の一つ一つが出所を明記して動かぬ歴史の事実を告発し、どんな攻撃もゆるさぬ力で訴えかけてきます。

南京大虐殺があつたことは、日本政府も公式に認めている歴史的事実です。国際的には、1951年のサンフランシスコ平和条約第11条で、日本は南京大虐殺を認定した東京裁判の判決を受諾すると約束し、国際社会に復帰しました。河村名古屋市長の発言があつても、外務省は公式見解として、「被害者の具体的な人数については諸説」があるとしながらも、「日本政府としては、日本軍の南京入城（1937年）後、非戦闘員の殺害や略奪行為等があつたことは否定できないと考えられています」と明言し、「植民地支配と侵略に

より、；多大な損害と苦痛を与えたことを率直に認識し、痛切な反省と心からのお詫びの気持ちに常に心に刻みつつ、戦争を二度と繰り返さず、平和国家としての道を歩んでいく決意です」とホームページで公表しています。

それでも南京大虐殺否定論が繰り返しもちだされるのは、歴史研究上も政治的にも決着のついている事実をあえてねじまげ、日本の侵略戦争を美化し、軍事大国への道をひらく危険なねらいと結びついています。日本政府が公式見解に逆行し、「動的防衛力」などアメリカの世界軍事戦略の一翼をになう動きをつよめていることと一体です。

展示物のなかに、私がつけていたガラス製の9条ペンダントと同じものを見つけてました。朱館長は、新婦人のことをよく知っていて、日本国憲法9条はすばらしいと高く評価し、日本の首相、政府要人はここに来るべきだ、国民や女性は来ているのにと強調されました。

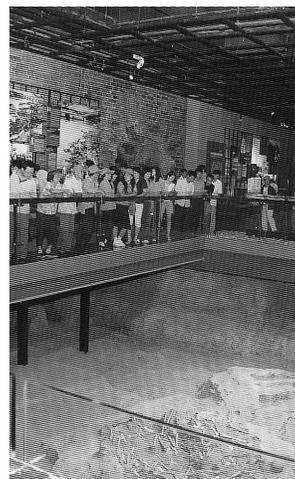
展示陳列エリア1階の最後には「前事不忘 后事之師（前事を忘れざるは後事の師なり）」の大きな文字が浮かび上がります。日中国交正常化のときに日本にむけて語られた言葉です。



1階展示の最後に十数トルの壁に刻まれた文字。1972年の日中国交正常化のときの周恩来氏（当時首相）の言葉。



吹き抜け3階ほどの壁に被害者ごとの個人情報が一一人一つの箱に詰められ1万2000箱が積み上げられている。殺害場所など確かな情報を確認された被害者だけでも、今もなお増えつづけている。



記念館は、中国人や市民が処刑された「万人坑」の跡地に立てられ、掘り起こされた遺骨をそのままの形で保存している。

●江蘇省の婦女連と交流

南京では、江蘇省婦女連合会の婦女児童活動センターや芸術幼稚園を見学し、鄧紅（とうこう）主席や陳芬（ちんぶん）副主席らと会食会で交流したことも楽しい思い出となりました。江蘇省婦女連は石川県の女性たちと交流をしているとのこと、新婦人が南京訪問を希望したことが歓迎され、活動を交流しながら、日中女性が平和への願いでしっかりと結ばれていることを確認しました。

訪問を終えて―歴史と戦争・原発

今年（1972年）の日中国交正常化から40年、新婦人創立50年、サンフランシスコ平和条約・日米安保条約発効60年の年です。

この40年、日中間の人的交流は600倍となり、経済的にも貿易額は300倍に急増しています。



江蘇省婦女連と会食しながら交流

2004年に対中国が対米を上回り、2011年には対世界貿易シェアで中国は23・3%を占め、米国の11・9%の倍となつています。この隣国との友好関係の前進なしに、日本の今後はありません。にもかかわ

らず、「中国脅威」論や領土問題を利用した反中国キャンペーン、それを利用した双方の軍事的対応、アメリカの対中戦略に同調したTPP参加をおおる論調や動きが後をたちません。

私は、今回の訪問を終えて、私たちが、日本の侵略戦争の最大の被害地、いまでも傷が深く残る中国各地をたずね、その実相を知ること、学ぶこと、戦争を直接知らない世代に継承していくことが、本当の日中の友好とアジアの平和な未来のためにも、もっと必要だと実感しました。「慰安婦」問題でも、南京に先立って海軍によって作られた上海をはじめ、中国全土の日本軍が侵攻する先々で作られた「慰安所」の実態、戦争末期の沖縄に中国からの日本の軍隊が送られ、130カ所以上の「慰安所」が作られた経緯など、中国での実情をさらに知りたいと思えました。戦時の性暴力の禁止へと国際社会は動いています。ジェンダー視点でみたとき、なによりも戦争そのものを絶対に対処してはならないとの思いをいっそう深くしました。中華婦女連との定期交流が、真の日中友好とジェンダー平等確立へ、さらに実りあるものとなることを願うものです。

いま、日本は大きな転換期を迎えています。侵略戦争、原発事故など、「負の過去」

に真剣に正面から向きあつて真にのりこえる政治が求められています。「再稼働反対」「原発反対」「野田やめろ」の声が空前の規模で首相官邸を包み、連帯行動が全国に波及し、沈黙していたメディアや女性誌も「日本にも『アラブの春』」「アジア革命」と報じる、新しいうねりがまきおこっています。消費税大増税・社会保障大改悪法案の衆院採決やオスプレイ配備などの動きとあわせ、くらしもいのちもかえりみない財界・アメリカいなの政治の大きさとへど怒りがむけられています。このたたかいが、アジアの平和に貢献する日本への展望もひろくものとなるに違ありません。

新婦人は、いま創立50年記念運動「憲法とジェンダー視点でつくりかえよう いのちを守る社会に」と班からとりくんでいます。新版「日本軍『慰安婦』問題解決のために」パンフの活用、≪EJ≫（女たちの戦争と資料館）特別展「沖縄の日本軍慰安所と米軍の性暴力」（2013年6月末予定）見学、基地撤去と安保条約廃棄をめざす学習やとりくみがすすめられています。「発信&行動」、祝う、仲間づくりの記念運動をさらにひろげることが、中国、アジア、世界の女性との連帯と信頼をきざす力となると確信し、決意新たにとりくんでいきます。

南京大虐殺記念館が伝えたいこと

侵華日軍南京大虐殺遇難同胞記念館館長

しゅせいざん
朱成山さんが語る

(2012年5月16日 新婦人訪中団との懇談での発言より)

私は何度か日本を訪れ、女性国際戦犯法廷(2000年12月・東京)にも参加しました。新婦人の方にもお会いしたことがあります。

貴会を含め日本の女性団体が、平和を守る活動や「慰安婦」問題に真剣に取り組んでいることを知っています。みなさまの多大な努力に敬意を表します。

私は当館の館長であり、日本軍南京大虐殺史研究会の会長と、南京国際平和研究所の所長もつとめています。

私は当館の館長であり、日本軍南京大虐殺史研究会の会長と、南京国際平和研究所の所長もつとめています。



朱成山さん

歴史から平和な未来へ

年間600万人が来館し、2011年は95カ国から訪れています。

記念館は1985年に開館、1995年の姿に完成しました。前半が歴史、後半が未来と、大きく2つの部分からなります。歴史の真相を、現代と後代に伝えなければなりません。歴史の教訓に学んでこそ、過ちを繰り返さないことができます。後半は、平和をテーマに彫像などが展示されています。歴史から平和な未来へという思いが込められています。

ですから、南京大虐殺の歴史資料館とも国際的平和博物館ともいえると思います。

大虐殺の4つの内容

南京大虐殺の期間は、1937年12月13日

から翌年の1月まで6週間でした。内容で言えば、4点あります。

一つは虐殺、生命の犠牲です。
二つめは、女性への強かん、輪かんです。南京安全部の記録では、1カ月に8万件とさされていますが、法廷の記録にもとづき、当館では2万件と記録しています。

三つめに、南京の街の破壊です。3分の1が破壊されたと法廷で記録されています。

四つめに、略奪です。当時の南京の本や印鑑を持ち出したり、化学工場の資材を船で丸ごと南京から九州へ運んだ例もあります。

当時の人口と虐殺の規模

大虐殺は、城壁の内外で行われました。日本の右翼は当時、南京の人口は20万人、面積も50km²と言っていますが、城壁内の面積は500km²、市の中心部に設けられた国際安全区が当時50km²だったので、安全区の面積を南京市の面積と主張しているのです。

市の人口は、1937年1月時点で101万6000人、盧溝橋事件後、首都を重慶へ移したとき15万人が移動しています。その年(1937年)の11月に60万人が残っていたという資料があります。うち大多数の50万人が民間人、25万人が国際安全区に、そして四川省、安徽省、上海から兵士11万人が防衛に

〈館内に掲示している3人の言葉〉

●「許すことはできても、忘れてはいけない」
ジョン・ラーベ。ドイツ・シーメンス社南京駐在事務所
所長。南京で、虐殺を目撃した外国人の一人。

●「私は復讐主義者ではない。日本軍国主義の
私たちに対する血の債務を日本国民に償わ
せるつもりはない。しかし、過去の苦難を忘
れるなら、未来に災禍を招く」梅汝璈（ばいじょ
こう）。極東国際軍事法廷裁判官。

●「歴史をしっかりと覚えよう。しかし恨み
を覚えてはならない」李秀英（りしゅうえい）。
南京大虐殺の生存者。当時19歳で妊娠していたが、国
際安全区内の小学校で日本兵3人に襲われ、37カ所刺
される。名誉棄損裁判で勝利判決を勝ち取る（2005年
最高裁で確定）。

来ていました。戦場で1万人が戦死し、1万人が逃げ、9万人は捕虜となり殺されました。その他、近くから難民となり南京へ来た数万人が、揚子江を渡れず、町にとどまりました。

南京大虐殺の犠牲者数30万人という数字は、2つの法廷の判決にもとづいています。

一つは国際極東軍事裁判（東京裁判 1946年）の判決で、南京大虐殺について民間人と捕虜20万人以上と明記し、死体の数字が含まれていないと付記されています。もう一つ、南京裁判（1947年）は30万人余とあります。30万人は、国際社会に認定され、歴

史的証拠にもとづいて明確にした数字だということです。

残酷なのは歴史そのもの

歴史の真相は埋め込むのではなく、人に示すことが重要だと考えています。あまりに残酷という人もいますが、残酷なのは、資料でも写真でもなく、歴史そのものです。ここに展示しているのは、写真3500枚、物品3200点、記録映画149点ですが、すべて出所を明記しています。

私は、広島平和記念資料館に何度も行ってきます。展示を通して、核兵器の残酷さを人々に教育しています。歴史に立ち向かう態度は、日本もアメリカも中国もみな同じです。当記念館の展示も、復讐をおおるためではなく、平和を大切にすること、戦争を起さないようにすること、平和を目標にしています。

展示室に、3人のことばを掲げています（上掲）。字を大きくし、目玉の一つにしています。若い人たちに、こういう態度で歴史に立ち向かってほしいと思います。3人のことばに象徴される姿勢は、政府の態度にも反映されています。一貫してひとにぎりの日本の軍国主義者と一般国民・兵士を分けて対応しています。当時の国民党政府は「徳をもって

恨みを解消する」として、下級軍官や一般兵士を解放し日本に船で返しました。戦争孤児も保護しました。地方政府も含めてです。日本の兵士、社員も保護しました。

河村市長は、父親が日本軍として鎮江から南京へ歩いて入った、南京虐殺があったとしたらなぜ自分の父親は生きているか、と言っています。中国人の気持ちがあわかっていません。彼の論ではまちがっています。逆に考えれば、もし復讐していたら父親は死に、河村氏は生まれてこなかったのです。

虐殺中に設置された慰安所

「慰安所」は、日本軍が南京大虐殺で強かん・輪かんを多数おこなったことがきっかけで日本軍により作られました。アメリカやイギリスの記者が告発して国際的にも大きく批判され、岡村寧次上海派遣軍参謀副長が責任者だったことが明らかになっています。

南京に最初に設立したのは、虐殺期間中です。1938年1月、市中心部に2カ所ありました。朝鮮、日本、一番多かったのは地元ですが、国際安全区からも女性を連れ出し、慰安所が作られました。1945年の敗戦まで南京にいくつか慰安所があり、今も跡地が何カ所残っています。うち1つは、朝鮮の元「慰安婦」の朴永心（ぱくよんしむ）さん

が訪問し、「自分がいたところだ」と証言しました。1938年に南京にいて、さらに南へ連れて行かれ、朝鮮に戻りました。

中国人の性暴力に対する態度ですが、被害者は語りたがりません。公にせず、心の奥底にしまいこんでいます。そんななか、元「慰安婦」として勇気を出して名乗りをあげた一人に、雷桂英（らいけいえい）さんがいます。お腹がすいて芋をとって食べていたところを日本兵に見つかり、9歳でレイプされました。13歳のとき湯山高台の慰安所へ連れて行かれ、下水道から逃げ出しました。

生存者の一人に楊明貞（ようめいちん）さんがいます。7歳でレイプされ、現在、養老院で暮らしていますが、病気になるって苦し



朱成山館長にパンフレット「日本軍『慰安婦』問題解決のために（新版）」を渡す笠井会長

み、精神的にも大きな打撃を受けて、今も大きな声で叫んだりします。私も同行し、女性国際戦犯法廷に参加した人です。

日本政府は、戦争遺族会には後代まで支援しているのに、中国の元「慰安婦」には賠償も支援もしていません。ヒューマニズム、人道性、中日友好の点から言って残念です。

中国「慰安婦」問題の研究は韓国に比べて遅れています。政府として調査はしておらず、民間の調査が始まっています。南京で最初にこの問題を研究したのは、南京保安局の女性職員でした。これまで2回研究会が開催され、その中に「慰安婦」の資料があります。1998年には上海師範大学の蘇智良教授が、慰安婦問題研究センターを設立しました。2006年には江蘇省と南京市、南京大学の共同施設として、南京大学民国史研究センターが設置され、その中に「侵華日本軍南京大虐殺研究所」が作られ、今も調査、研究がつつづいています。私たちは、資料収集のほか、生存者支援の基金をつくり、募金を集め、生存者の晩年を少しでも楽しくと、主に医療支援に充てています。

東アジアの平和のために

隣国同士に良い悪いの選択肢はありません。良い隣人としてあらねばなりません。国

と国の関係は、つきつめると人と人との関係です。

私が関心を寄せているのは、サンフランシスコ条約後、日米同盟を結んでから日本がアメリカに依存し、アジア諸国との関係を軽視していることです。賢くないやり方です。

日本国憲法、特に9条はすばらしいと思います。日本は9条によって戦後、経済発展を遂げました。しかし、改憲を掲げる政党に所属する議員が国会の9割を占めているのは、残念です。日本の首相で当館を任期中に訪れた政治家は一人もいません。ドイツの大統領や首相は、ポーランドへ行き、世界に態度を示しています。なぜ日本はそうしないのでしょうか。国民のみなさんは、はるばる歴史を学びにここにいらつしゃっています。

日本の政治家や要人たちは歴史を正しく見て、被害者に謝罪する気持ちをもってほしい。そうしてこそ、真の中日友好が始まります。ここで知った歴史の真実を日本の皆さんに伝えてください。東アジアの平和のために、みなさんと力を合わせていきたいと思えます。

（まとめ・文責 中央常任委員 長谷川あまり）

平和とジェンダー平等を うったえた宋慶齡

北京市の宋慶齡故居を訪れました。宋慶齡（1893～1981）は、上海の裕福な名家の3姉妹の長女で14歳から20歳までアメリカに留学、1915年に、辛亥革命（1911～1912）を指導し、南京に中華民国をうちたて「国父」と呼ばれる孫文と結婚。1949年の中華人民共和国成立後、人民政府の副主席、中華婦女連の名譽主席に選出され、中国の女性と子どもたちの教育や福祉のために活動した女性です。映画「宗家の3姉妹」（1977年）も有名です。宋慶齡の故居は、ラストエンペラーとして知られる清朝

南京での のための活動



宋慶齡故居入口

最後の皇帝愛新覺羅溥儀の生家で、宋慶齡は1962年から1981年に亡くなるまで暮らしました。現在国の重要文化財になっています。

故居内には3つの展示室があり、パネル写真や手紙、生活用品などを通じて宋慶齡の一生と同時に、孫文の時代、抗日のたたかいと革命後の中国の様子を知ることができます。孫文と宋慶齡が結婚したのは当時孫文が亡命生活を送っていた東京。日本との関係も興味深いものがあります。目を引かれたのは、1924年に神戸の高等女学校での演説の1節。「東西の女性たちよ、世界を変えるために団結しましょう！ 普遍的な軍縮、差別政策の廃棄、不平等条約の撤廃をもとめ、団結しましょう。私たち女性は必ず成果を手にするでしょう。」

宋慶齡は平和と平等をめざし、変革者としての女性の力に着目していたのです。



27歳の宋慶齡

子どもと女性の歩みを 記録する博物館

中華婦女連の本部の横に、ひととき目を引く近代的な建物。中国婦女兒童博物館です。前々回の婦女連の日本への訪問（2006年）では、準備中の博物館の展示部責任者の



方が団に加わり、参考にしたと都内の国立科学博物館や国際子ども図書館、子どもの城などを見学していましたが、2010年、女性と子どもをテーマにした博物館第1号として、オープンしました。子どもたちに囲まれた宋慶齡の壁画に迎えられ、曾祝副館長の案内で見学しました。

5つの子どもの館と6つの女性の館、あわせて11の展示室へ

中国婦女兒童博物館



北京、

女性と子ども



芸術幼稚園で

南京では、江蘇省婦女児童活動センターとその敷地内にある芸術幼稚園を見学しました。朝8時半ごろ、園庭では園児たちが体操をしていました。年中クラス（4〜5歳）の子どもたちの元気いっぱいであらしい姿を、送ってきた親たちやおじいちゃん、おばあちゃんが目細めて見守っています。

センターの戴錦高副主任と李軍弁公室長、幼稚園の胡久紅副園長の案内で、センターで行われている課外活動と幼稚園の様子を見学しました。2歳児は半日保育で、16人ずつ午前と午後各3クラスで6クラス、年少と年中

江蘇省婦女連児童活動センターと芸術幼稚園



は30人ずつ各3クラス、年長は35人ずつ3クラス、1クラスに先生は3人。おやつ2回と昼食

がついて保育料は1カ月700元（約8700円）と決して安くはありませんが、入園希望者が多く毎年選考が悩みの種だと、戴錦高副主任。中国では乳児を預かる保育所がほとんどなく、幼稚園の多くは3歳児からなので、2歳児から受け入れていることが人気の理由の一つ。もうひとつは、センターでの課外活動です。幼稚園は3時まで、4時から隣のセンターで歌、ダンス、絵、囲碁、民族・伝統楽器、将棋などの教室が始まります。司会や漫才といったユニークな教室も。多い日は1日8教室にもなるそうです。1教室の授業料は半年で300元。幼稚園と同じ敷地にあるので安心して通わせられます。午前中は老年大学として、高齢者の活動に活用されており、人気はダンスや歌。女性たちが多く参加し、70代のファッションショーもあるとか。新婦人の地域の活動に通じるものを感じました。

（新婦人国際部長 平野恵美子）



南京市内のスーパー。北京より物価が安い



中国の“新幹線”高速列車で南京から上海へ



公共交通が課題の北京、新たに地下鉄建設中

習の部屋と玩具の展示室があります。衣装の展示室には色とりどりの民族衣装が飾られ、国土の広さと文化の多様さ、女性たちのおしゃれ観のちがいを見ることが出来ます。展示品は3万点を超え、入場は無料。歴史と文化を女性と子ども、民族の視点で記録・保存する場であり、学習の場ともなっています。

▽は、子ども、女性それぞれ古代、近代、現代と3つの展示室で発展をたどり、女性については国際交流、衣装、芸術（織物やろうぞめ、切り絵など）の3つの展示室、子どもについては体験学